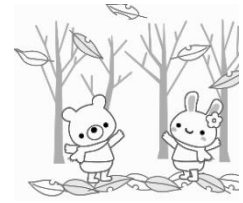




学校だより

横浜市立秋葉中学校

令和元年12月2日発行



電話811-6773 FAX813-9438

確かな学びをめざして

校長 狩野久幸

師走となり、令和元年も残りわずかになりました。大きな行事が終わり、今、生徒達は落ち着いて、学習に集中しています。中でも3年生は、受験に向けて真剣です。11月9日の土曜公開授業で保護者の皆様にもその様子をご覧いただきました。例年にも増して、多数の皆様にご来校いただきました。多くの感想を寄せていただきありがとうございました。

秋葉中学校では、2021年度から全面実施される新学習指導要領への移行に向けて、現在、教育課程の編成や教育環境整備にとりかかっています。その一環として、11月11日に校内授業研究会、12日に教育委員会指導主事による授業参観を行いました。外部の先生方からも多くのご示唆をいただきました。また、全校生徒による授業評価も行いました。授業評価の全体傾向はグラフのとおりです。様々なご意見、生徒の声を謙虚に受けとめ、今後も「確かな学び」の実現をめざして、授業づくりを進めてまいります。



上:ICTも活用したイカの解剖
下:教職員による研究協議

全校生徒による授業評価

■ そう思う □ ややそう思う ▨ あまりそう思わない ■ そう思わない



様々なご意見や授業評価を受けてこんな改善を進めます

◇授業のねらいをはっきりと提示する。◇生徒の興味を引き立てる授業展開を工夫する。◇新しい時代に対応した教材を工夫し、生徒の興味・関心を伸ばす。◇授業の進度検討と内容の精選を行う。◇「分かった」と思えるような瞬間を授業の中に作る。◇実験・観察・活動の場面を増やし興味・関心を高める。◇一斉授業では、机間指導を強化し、苦手な生徒への対応を丁寧に行う。◇少人数授業では苦手な生徒のためにも習熟度別等でクラス分けをし、より生徒のニーズに応える。◇生徒の実態に合わせて教材を研究、開発する。◇わかりやすい板書を工夫する。◇必要な場面でICTを活用する。◇個別対応ができる時間をより多く作る。◇より実践的で応用力を伸ばす授業を考える。

土曜公開授業を開催



土曜公開授業（1, 2校時）・懇談会（PTA茶話会）・3年進路説明会が行われました。土曜日ということでお父様の姿も多くみられました。

1年 福祉体験学習



車いす体験・視覚障害者体験・手話講座が行われました。体験を通して、様々な人の立場を考え、思いやりや助け合いの心を持って行動できる人になってほしいと思います。

読書週間イベント

図書委員会が読み聞かせ・アニメーション・しおりづくり・本にゆかりのある曲の放送・クイズとプレゼントなどの企画を立て活動しました。来館者が増加しました。



野球部 市大会で健闘!

横浜市中学校秋季野球大会で順調に勝ち進み3位という好成績に輝きました。日頃の地道な努力が実りました。技術や精神力を向上させ、次の大会ではさらに頑張してほしいと思います。



12・1月のおもな予定

| | | | |
|-----|-----|-----|--|
| 12月 | 3日 | (火) | 生徒会専門委員会 |
| | 6日 | (金) | 3年個人面談 |
| | 9日 | (月) | 3年個人面談 |
| | 10日 | (火) | 1・2・3年個人面談 |
| | 11日 | (水) | 1・2・3年個人面談 |
| | 12日 | (木) | 1・2年個人面談、3年個人面談予備 学校保健委員会 |
| | 13日 | (金) | 1・2年個人面談、6, 7組校外学習 |
| | 16日 | (月) | 1・2年個人面談予備 |
| | 18日 | (水) | 立ち会い演説会リハーサル |
| | 19日 | (木) | 生徒会役員選挙 |
| | 20日 | (金) | 6, 7組校外学習 |
| | 23日 | (月) | 学年集会、大掃除 |
| | 24日 | (火) | 全校集会 |
| | 25日 | (水) | 冬季休業 |
| | 27日 | (金) | ～1月5日(日) 閉庁日 |
| 1月 | 7日 | (火) | 全校集会、生徒会役員認証式 |
| | 8日 | (水) | 書き初め展教室展示 |
| | 14日 | (火) | 生徒会専門委員会、体育着販売 |
| | 15日 | (水) | 中央委員会 |
| | 16日 | (木) | 2年職場体験事前訪問、3年私立高校推薦入試出願 |
| | 22日 | (水) | 3年私立高校推薦入試・合格発表 |
| | 23日 | (木) | 2年職場体験 |
| | 24日 | (金) | 3年私立高校一般入試出願 |
| | 28日 | (火) | 3年公立高校共通選抜入試出願 |
| | 30日 | (木) | 1年職業講話、3年学年末テスト(英・数・理) |
| | 31日 | (金) | 3年学年末テスト(社・国・学活) 6, 7組 市合同学芸会(西公会堂) |



鳥飼先生が横浜市教職員海外研修派遣として、インドを訪問しました。その報告です。

多様性の国 インド(ムンバイ)を訪問して

生徒指導専任 鳥飼真人



令和元年10月21日(月)～26日(土)までムンバイへ海外研修に行ってきました。空港に降り立った瞬間から独特のにおいを感じ、クラクションが鳴り止まない、スラム街と高層マンションが一枚の写真に収まる街並み、信号や車線がなくて交通等すべてにおいてインパクトがありました。



■「子どもの学び」

生活環境、家庭環境によって大きく教育内容や生活水準が変わる中、子どもたちがそれぞれの環境に順応し、生活している姿が印象的でした。カーストとよばれる身分制度が廃止されても、なお残っている現状があり、貧富の差はとて大きな状況でした。

インドの私立学校(グローバル校)では、学ぶべきことの**キーワード**が各教室や廊下等に可視化され、いつでも誰でも意識し、教育活動ができる環境でした。また、世界に目を向け、IB教育やSDGsへの取り組みなど横浜の教育には見られない徹底さを感じることができました。インドのすべての子どもたちが受けられる教育ではないという点に考えるところがありましたが、取り組みや授業実践において、とても見習うべきものだと感じました。グローバル校や大学の見学の際、子どもたちからも学校内においてもヒンディー語を聞くことは全くなかった状況でしたが、スラムの子どもたちは、英語を話すことができず、教育は日本でいう寺子屋的なものにとどまっています。さらに全く教育を受けられない子どもたちがいることも事実です。

街並み

夕方の買い物



交通渋滞



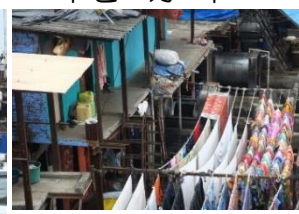
朝のラッシュ



ドビーガード



トラックの荷台から



■ザビエル工科大学 施設・授業見学

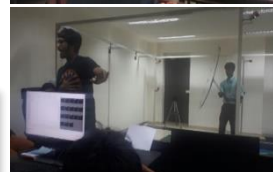
- プログラミングラボ 現実の問題をデモのロボットで解決
乾燥すると自動で水やりを行う装置
手首の角度だけで動かすことができる車いす 等
- モーションキャプチャーで外科的な医療をフォロー
4時間かけてくる患者がいる。

○教授からの宿題 (インドの教育者の疑問等)

- ①なぜ、「小さな国」日本がこれほど発展したのか?
- ②なぜ、英語を話せない日本人が多いのに成功するのか?
- ③なぜ、日本の製品は世界で認められているのか?
- ④プログラミング教育の是非についてどう考える?
- ⑤なぜSDGsをすすめているのか?
- ⑥日本の大学の教育システムは?
- ⑦インドで日本語を教える教育者に聞きたいことは? 等



※足場はバンブー



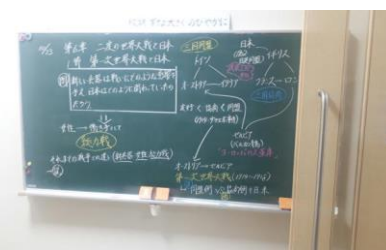
■ファズラニ ラカテミエ グローバル学校

- ・レベルの高い私立学校。
(このレベルの学校に通うことができる子どもはインドの子どもたちの5%)
- ・ICT教育を重視。学年が上がるにつれ、インターネットを用い、インタラクティブな授業。i P a dは、幼稚部より各教科で使用している。
- ・子どもたちの学びは、アプリに記録され、保護者と共有。
- ・蓄電式のソーラーランプを作り、スラムにプレゼントしている。
- ・SDGsの取り組みでは、保護者から集めた食材を調理し、スラムに提供する。
児童、生徒が持つダイアリーにはSDGsが載っており、1か月ごとに実際に自分で行ったアクションを記録している。
- ・キーワード Risk-Taker Thinker Principled Caring Communicator
Knowledgeable Balanced Inquirer Open-Minded Reflective
- ・学校の周りはスラム。



■ムンバイ日本人学校

ムンバイ付近の街並みとは違い、高級住宅街のビルの中にあり、セキュリティーも厳しい。学校の中は日本の学校と同じである。給食はなくお弁当である。

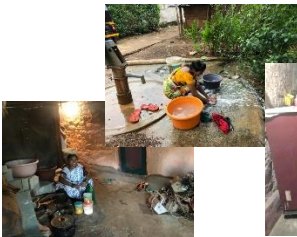


■HARI SHANKAR FOUNDATION 経営学校 (NGO)

スラムの中にあり、生活住居がすぐそばにある補習的な学校。制服を着ている子どもは学校に通っている。大学に進学する子どももいる。



■「生活住居」



■「感性を豊かに」

様々な環境によって、子どもは特に左右され、成長をしていきます。これからの国際社会において、感性を豊かにすることはとても大切な一つと考えます。世界に目を向けることもその一つであり、実際にインドに研修に行ったことで、多くのことを考え、今後はどう生かしていくか多くの悩みが生じていますが、日本、横浜の良さを感じることも多くありました。子どものあるべき姿、学ぶべき事柄、それを教えるわたしたち教職員の能力、感性などより多くの課題発見につながりました。

■「おわりに」

ムンバイ研修を通して児童・生徒たちがグローバル社会の中で広い視野で考える意識をもち、文化や価値観の違いを理解しつつ、協力できる力を身につけることができるよう努めていきます。

